新版 唐代墓誌所在総合目録（増訂版）

凡　例

Ⅰ　この『新版　唐代墓誌所在總合目録（増訂版）』は、唐代（618～907）およびその期間中の中國において作成された墓誌(銘)を、2008 年までに刊行された墓誌石刻關係圖書から取り出し、年號別、年代順に分類配列して、その石刻關係書に載る所在を明らかにしたものである。本書に先立って、1997 年に刊行した『唐代墓誌所在總合目録』(墓誌 5,482 點、墓誌蓋 344 點の合計 5,826 點) の上に、體裁を改めてその後の情報を盛り込んで 2004 年に刊行された『新版唐代墓誌所在總合目録』（6828 點）がある。本書はその『新版』にその後の 5 年間に追加された墓誌資料を可能な限り採録し、あわせて前『新版』での誤りを修正して、墓誌を年号順（時代順）に配列して所在（掲載）状況を明らかにした。

このたび新たに增補・追加された墓誌・墓誌蓋の數は以下の如くである。

・前『新版』所載の墓誌・墓誌蓋に新たにデータを追加したもの：1702 點
・前『新版』に新たに追加された墓誌・墓誌蓋：1919 點
・當『增訂版』所在の墓誌・墓誌蓋の總數：8747 點（6828 點＋1919 點）

Ⅱ　ここに取り上げた石刻關係書の名前は以下のようになる。まず目録注で使用する略稱を示し、そのあと正式名稱と説明を行う。なお書名のあとに付した＊印は、舊版ですでにとりあげたものであることを意味する。

○題跋：『石刻題跋索引』（楊殿珣編。商務印書館、1940 年第一版。戰後に增訂）＊
當目録では 1991 年重印本を利用した。その所在は「墓誌」の項の「唐」代部分（164～219 頁）に載る頁數を、檢索の便を考えて、毎頁左右二列に分け、さらに上中下の三段に大きく區分けして表記した。例えば“178 右中”とあれば、“178 頁の右列の中段”となる。なお同一資料名が列擧されて他の段落や頁に及ぶ場合にも、その最初の部分だけを掲げておいたので注意いただきたい。

○北圖：『北京圖書館藏中國歷代石刻拓本彙(匯)編』全 100 册（北京圖書館　金石組編。中州古籍出版社、1989～1991 年）＊
このうち、第 11 册から第 35 册までが唐代の石刻で（1989 年刊行）、ここから墓誌を取り出し、册數と圖版番號（頁數）で所在を示した。なおこれらの墓誌は、徐自強主編『北京圖書館藏墓誌拓片目録』（中華書局、1990 年）からも確認できる。舊版ではその徐自強『目録』に名前がみえて『彙編』にない墓誌には、氣づいた範圍で「未收録(北圖所藏)」と加えておいたが、新版では削除した。

○附考：『唐代墓誌銘彙編附考』（毛漢光撰。臺灣・中央研究院歷史語言研究所）＊
第 1 册 1984 年刊、以後不定期に刊行、1994 年刊の第 18 册まで出て停止。拓本寫眞に詳細な釋文と注釋が加わる。表記は各册數と墓誌（圖版・釋文）に付された番號とで行った。

○千唐洛陽：この欄ではスペースおよび利用の便への配慮の他、洛陽地域出土で相互に補完の關係にあって重ならないという理由から、次の 3 書を一括表示した。

・千唐：『千唐誌齋藏誌』上下 2 册（河南省文物研究所・河南省洛陽地區文管處編。文物出版社、1984 年）＊。本書は民國年間收集の誌石拓本集であり、この欄の中心に立つ

ものであるため、書名を擧げず、各圖版に付けられた番號だけを表示した。

・輯繩：『洛陽出土歴代墓誌輯繩』1 册（洛陽市文物工作隊編。中國社會科學出版社、1991 年）＊。解放後に發現した墓誌資料集で、『千唐誌齋藏誌』を補うことを意圖する。表記の番號は圖版に付された番號（頁數と同じ）である。

・新獲：『洛陽新獲墓誌』1 册（李獻奇・郭引強編著。文物出版社、1996 年)。『輯繩』が洛陽市文物工作隊管轄の新發見墓誌であったのにたいし、本書は洛陽地區のそれ以外の場所・機關で發見收藏した資料集。前半が拓本寫眞、後半を釋文と解説にあてる。表記は各墓誌に付された番號である。

○隋唐五代：『隋唐五代墓誌彙(匯)編』（同總編輯委員會編。天津古籍出版社、1991 年～1992 年）＊

全 30 册あり、洛陽卷 15 册、陝西卷 4 册、北京卷附遼寧卷 3 册（北京と表記)、北京大學卷 2 册（北大と表記)、河北卷 1 册、山西卷 1 册、江蘇山東卷 1 册（江蘇と表記)、河南卷 1 册、新疆卷 1 册、それに索引 1 册となる。所在の表記は、卷名とその册番號・所載頁數で行った。

○墓誌彙編：

・『唐代墓誌彙編』上下 2 册（周紹良主編・趙超副主編。上海古籍出版社、1992 年）＊。本書は唐代墓誌の釋文篇に相當し、各墓誌釋文に付された年號・番號でそのまま所在を表記した。

・『唐代墓誌彙編續集』1 册（周紹良・趙超主編。上海古籍出版社、2001 年)。正編で漏れた唐代墓誌の釋文篇。表記は正編と同樣に行い、その前に「續」字を付けた。

○新中國：『新中國出土墓誌』（文物出版社）として、中國文物研究所が地方省市の關係機關と協力して刊行したシリーズを一括する。それぞれ原則上下 2 册からなり、上册が圖版（拓本）で下册が釋文。所在の表記は各地方卷の名稱と各卷の墓誌に付された番號で行った。

・河南壹：『新中國出土墓誌・河南〔壹〕』上下 2 册（中國文物研究所・河南文物研究所編。1994 年）＊

・陝西壹：『新中國出土墓誌・陝西〔壹〕』上下 2 册（中國文物研究所・陝西省古籍整理辦公室編。2000 年 11 月）

・河南貳：『新中國出土墓誌・河南〔貳〕』上下 2 册（中國文物研究所・河南文物考古研究所編。2002 年 12 月）

・重慶：『新中國出土墓誌・重慶』1 册（中國文物研究所・重慶市博物館編。2002 年 3 月)。本書は 1 册中に前半を圖版（拓本)、後半を釋文とする。

・陝西貳：『新中國出土墓誌・陝西〔貳〕』上下 2 册（中國文物研究所・陝西省古籍整理辦公室編。2003 年 10 月）

・北京：『新中國出土墓誌・北京〔壹〕』上下 2 册（中國文物研究所・北京石刻藝術館編。2003 年 12 月）

・河北壹：『新中国出土墓誌　河北壹』上下 2 册（中国文物研究所・河北省文物研究所編。2004 年 12 月）

・江蘇：『新中国出土墓誌　江蘇壹・常熟』（中国文物研究所・常熟博物館編。2006 年 11 月）

・河南参：『新中国出土墓誌　河南参・千唐誌齋壹』（中国文物研究所・千唐誌齋博物館

編。2008 年 1 月）

○新編：『全唐文新編』全 22 册・1000 卷（同編輯委員會編。吉林文史出版社、1999 年～2001 年）。全體は通頁が付されており、檢索の便を考え、所在は册數と資料の最初がくる頁數を示した(卷數は煩瑣のため表示しない)。例えば、“20-13740”であれば、20 册目の 13740 頁（通頁）が當該資料の最初の箇所となる。

○補遺：『全唐文補遺』全 7 册（輯）＋第 8 集（2005 年 6 月）、第 9 集（2007 年 7 月）（陝西省古籍整理辦公室編 三秦出版社、1994 年～2007 年)。資料の番號がないため、各册（輯で表示する）數と最初の所載頁の順で表記する。

○千唐：『全唐文補遺・千唐誌斎新蔵専輯』(同陝西省古籍整理弁公室編。2006 年 6 月）

○補編：『全唐文補編』全３册（上中下）（陳尚君輯校。中華書局。2005 年 9 月）

○地方：下記の地方編纂物に掲載される墓誌。「地方」の項で一括する。各書物の最後に「略号＋所在箇所」を表記する。

・『河北金石輯録』(石永士・王素芳・裴淑蘭著。河北人民出版社、1993 年 3 月)。河北＋頁數（目録部分　目録＋頁數）

・『河東出土墓誌録』(陳繼瑜・傅仁傑・呉鈞・李漢英編。李百勤執筆山西人民出版社、1994 年 4 月)。河東＋資料番號

・『鴛鴦七誌齋藏石』(趙力光編。三秦出版社、1995 年 12 月)。鴛鴦＋資料番號

・『山東石刻藝術精萃』全 5 卷（山東省石刻藝術博物館編。浙江文藝出版社、1996 年 8 月）（鐵山北朝刻經卷、歴代墓誌卷に南北朝隋唐の碑刻を收録)。山東＋資料番號

・『山西碑碣』(山西省考古研究所編、山西人民出版社、1997 年 2 月)。碑碣＋頁數

・『遼寧省博物館藏墓誌精粹』(王綿厚・王海萍主編。中教出版、2000 年 1 月(別名『遼寧省博物館藏碑誌』、文物出版社)。遼寧博＋資料番號

・『中國西北地區歴代石刻彙編』(趙平編。天津古籍出版社、2000 年 8 月)。西北＋卷數＋頁數)

・『唐代薛儆墓發掘報告』(山西省考古研究所編著。科學出版社、2000 年 9 月)。薛儆＋頁數(圖版番號)

・『武威金石録』(王其英主編。蘭州大學出版社、2001 年 8 月)。武威+頁數

・『偃師杏園唐墓』(中國社會科學院考古研究所編著。科學出版社、2001 年 10 月)。杏園＋資料番號

・『邯鄲碑刻』(呉光田・李強編。天津人民出版社、2002 年 6 月)。邯鄲＋頁數

・『唐金鄉縣主墓』(西安市文物保護考古研究所・王自力・孫福喜編。文物出版社、2002 年 11 月)。金鄉＋録文掲載頁數

・『濟南歴代墓誌銘』(韓明祥編著。黄河出版社、2002 年 12 月)。濟南＋頁數

・『遼寧碑誌』(王晶辰主編。遼寧人民出版社、2002 年 12 月)。碑誌＋頁數

・『保定出土墓誌選注』(侯璐主編。河北美術出版社、2003 年 4 月)。保定＋資料番號

・『濮陽碑刻墓誌』(王義印編著。中州古籍出版社、2003 年 5 月)。濮陽＋資料番號

・『鞏義芝田晉唐墓葬』(鄭州市文物考古研究所編著。科學出版社、2003 年 5 月)。鞏義＋録文掲載頁數

・『咸陽碑刻』上下 2 册（王友懐主編、李慧・曹發展注考。三秦出版社、2003 年 7 月)。咸刻＋資料番號

・『楡林碑石』(康蘭英主編。三秦出版社、2003 年 10 月)。楡林＋拓本掲載頁數

・『北京市文物研究所藏墓誌拓片』（北京市文物研究所編。北京燕山出版社、2003 年 11 月）。北文＋資料番號
・『北京市石景山區歷代碑誌選』（中共石景山區委宣傳部等編。同心出版社、2003 年 12 月）。石景山＋頁數
・『北京文物精粹大系・石刻卷』上卷（北京文物精粹大系編委會・北京市文物局編、北京出版社、2004 年 1 月）。精粹＋資料番號
・『唐新城長公主墓發掘報告』（陝西省考古研究所・陝西暦史博物館・禮泉縣昭陵博物館編著。科學出版社、2004 年 4 月）。新城＋録文掲載頁數
・『邙洛碑誌三百種』（趙君平編。中華書局、2004 年 7 月）。邙洛＋資料番號
・『山陽石刻藝術』（郭建設・索全星著。河南美術出版社、2004 年 9 月）。山陽＋頁數
・『景州金石』（鄧文華編著。中國文史出版社、2004 年 9 月）。景州＋頁數
・『高平金石志』（高平金石志編集委員會編。中華書局、2004 年 10 月）。高平＋頁數
・『洛陽新出土墓志釋録』（楊作龍等編。北京圖書館出版社、2004 年 10 月）。新出＋頁數
・『戸（鄠）縣碑刻』（呉敏霞主編、劉兆鶴・呉敏霞編著。三秦出版社、2005 年 1 月）。戸縣＋拓本掲載頁數
・『涿州貞石録』（楊衞・黄涿生編。北京燕山出版社、2005 年 10 月）。涿州＋頁數
・『臨汾歴代碑文選』（王汝雕・牛文山編著。延邊大學出版社、2005 年 12 月）。臨汾＋頁數
・『陝西碑石精華』（餘華青・張廷皓主編。三秦出版社、2006 年 6 月）。精華＋資料番號
・『衢州墓誌碑刻集録』（衢州市博物館編。浙江人民美術出版社、2006 年 6 月）。衢州＋頁數
・『長治金石萃編』上下 2 册（常福江主編。山西電子音像出版社、2006 年 8 月）。長治＋頁數
・『天書地字　大伾文化２』（浚縣文物旅遊局編著、2006 年 11 月）。天書＋頁數
・『臨潼碑石』（『臨潼文史資料』第 15 輯）（趙康民・李小萍編著。三秦出版社、2006 年 12 月）。臨潼+録文掲載頁
・『河洛墓刻拾零』上下 2 册（趙君平・趙文成編。北京圖書館出版社、2007 年 7 月）。河洛＋資料番號
・『西安碑林博物館新藏墓誌彙編』上中下 3 册（西安碑林博物館編、趙力光主編。線裝書局、2007 年 10 月）。新藏＋資料番號
・『響堂山石窟碑刻題記總録』全 2 册（張林堂主編。外文出版社、2007 年）。響堂＋資料番號
・『河間金石遺録』（田國福主編。河北教育出版社、2008 年 1 月）。河間＋頁數
○その他：スペースの都合から、點數の比較的少ないものをこの欄に一括表示した。
・唐宋：『唐宋墓誌：遠東學院藏拓片圖録』1 册（饒宗頤編。香港・中文大學出版社、1981 年）＊。表記は圖版の番號（頁數ではない）を用いた。
・曲石：『曲石精廬藏唐墓誌』（李希泌編。齊魯書社、1986 年）＊。李根源が收集した墓誌。表記の番號は圖版に付された番號である。
・咸陽：『咸陽碑石』1 册（（張鴻傑主編。三秦出版社、1990 年）。陝西咸陽地區所在の碑石資料集。圖版（拓本）と釋文で掲上する。各碑石に付けられた番號で表記した。
・昭陵：『昭陵碑石』１册（張沛編著。三秦出版社、1993 年）。唐太宗の昭陵とその陪葬

墓に關わる石刻集。前半が拓本で後半が釋文とその解説からなる。表記は拓本がのる頁數で行った。

（付記）『昭陵碑石』『咸陽碑石』と同じ陝西金石文獻彙編シリーズに、その他『安康碑石』1 册（張沛編著。1991 年）、『高陵碑石』1 册（董國柱編著。1993 年）、『漢中碑石』1 册（陳顯遠編著。1996 年）があるが、唐代墓誌は含まれない。

・碑林：『西安碑林全集』全 200 册・200 卷（高峽主編。廣東經濟出版社・深圳海天出版社、1999 年）。西安碑林所藏のほぼすべての墓誌碑刻が拓本で示され、そのうち墓誌は、墓誌の項目（59 卷～101 卷、195 卷～196 卷）と最後の補遺卷（199 卷）にまとめられる。頁は各項目ごとの通頁であるため、表記は當該墓誌の冒頭の頁數を、卷數（册數）とあわせて提示した。例えば、“73-1858”であれば、73 卷（册）の 1858 頁に墓誌の最初がくる。また“補-18”は補遺の 18 頁を意味する。

・吐魯番：『吐魯番出土磚誌集注』上下 2 册（侯燦・呉美琳著。巴蜀書舍、2003 年）。各墓誌に圖版寫眞と釋文・注記が付く。表記は各墓誌の番號による。

・南京：南京博物院藏『唐代墓誌』（袁道俊編著。上海人民美術出版社、2003 年）。本書の墓誌は、舊「曲石精廬」誌石とほとんど重なる。拓本と釋文を一括表示された各墓誌の番號を表記した。

Ⅲ　年號欄の配列は、原則として墓誌が墓中に埋納された日付（年月日）により、不明のときは死亡日（卒日）など他の手掛かりを用いた。なお墓誌の不鮮明さや記述の不明確さなどにより、日付の讀み取りが諸書間で異なったり、別の解釋が可能となる場合は、原則として當目録の編纂側で圖版や釋文にあたり直して最終判斷をした。そのため、年月まで同じでも日付で配列が入れ替わったり、配置場所を大幅に動かしたところもある。

Ⅳ　卷末の索引は墓主名（墓誌名）を筆畫順で示し、各畫數の冒頭にその畫數に含まれる墓主の頭文字を一括表示した。また配列は部首を基準にしている。ただし、字體の問題などで筆畫數に必ずしも統一がとれていないところがある。

Ⅴ　文字は原則として舊字體（繁體字）を用いたが、パソコン機器内藏の文字の制約などから、字體がすべて舊字體で統一はできていない。そのためⅣの説明に關連して、索引で用いた筆畫數は、當目録で使用した文字の畫數を掲げており、舊字體の本字と違う場合もあることを了承いただきたい。

Ⅵ　最後尾に提示した墓誌蓋では、できるかぎり諸書の重複具合を押さえたが、確定の難しいところが多く、なお不十分さを殘していることをご諒解願いたい。

以上